

「特別の教科 道徳」学習指導略案

第2学年

- 1 主題名 「友達と仲良くし、助け合う」 B 友情、信頼
- 2 教材名 「およげないりすさん」（出典：光村図書「どうとく2 きみがいちばんひかるとき」）
- 3 ねらい

児童の毎日に友達との関わりは欠かせない。友達とは、いつも仲良くできるわけではなくけんかをするこもある。そんなときでも相手のことを考え、仲良くしようとする心情を育て、人間関係を深めて行くことの大切さを感じ取らせたい。

指導に当たっては、様々な立場の身近にいる人に目を向けて温かい心で接し、親切にすることの大切さに考えを深められるようにする必要がある。また、その結果として、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、具体的に親切な行為ができるように、導いていきたい。

4 本時の展開

○友達の気持ちを考え、だれとでも仲良く助け合っていこうとする心情を育てる。

	学習活動（○発問、☆中心発問）と児童の反応（・）	◇指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	1 「友達」っていいなと思った経験を発表する。 ○どんなときに、友達っていいな、と思いますか。 ・いっしょに遊んでいるとき。 ・困ったときに心配してくれた。 ・忘れ物をしたときに、消しゴムを貸してくれた。	◇学級の友達に助けてもらったり、励ましてもらったりして。嬉しかったことや楽しかったことを発表させ、ねらいとする価値へと方向付けをする。
展開 35分	2 「およげないりすさん」を聞き、話し合う。 ○「りすさんはおよげないから、だめ」と言ったとき、みんなはどんな気持ちだったでしょうか。 ・りすさんがいると遊ぶ時間が減る。 ・りすさんは泳げないから、背に乗せなくてはならないから面倒だ。 ○島で遊んでいても、ちっとも楽しくないみんなは、どんな話をしたでしょう。演じてみましょう。 ・りすさんは、嫌な気持ちかもしれないね。 ・泳げないからって仲間外れはよくなかったな。 ・りすさんもいっしょに遊べる方法はないかな。 ○☆りすさんと島に向かっているときのみんなは、どんなことを思ったでしょう。 ・いっしょに遊べる方法を思いついてよかった。 ・りすさんの気持ちを考えなくてごめんね。 ・りすさんが笑顔になって、私たちも嬉しいな。 3 自分の生活を振り返る。 ○友達のことを考えて、優しくできたことはありますか。 ・一人で遊んでいる子に「いっしょに遊ぼう」と声をかけた。 ・友達が落とし物をしたときに、一緒にさがしてあげた。 ・ボールの投げ方をおしえてあげた。	◇みんなの自分勝手な気持ちを感じ取らせるとともに、泳げないために「だめ」と言われたりすのさみしい気持ちにも触れさせる。 ◇役割演技の前に、あひる・かめ・白鳥が「泳げない」という理由で、りすを仲間に入れなかった状況を確認する。 ◇役割演技を通して、りすがいないことでみんなもつまらなくなってきたことや、りすに申し訳ない気持ちになってきていることに気付かせ、りすに対するみんなの気持ちが変わってきていることについて考えさせる。 ◇資料の登場人物に共感しながら考えられるよう、友達との対話を取り入れ、考えさせる。
終末 5分	4 児童が優しくされたことや優しくしたことを紹介する。	◇今までに友達に優しくした経験を振り返り、友達を思いやり、助け合うことの大切さを考えさせる。 ◆資料の登場人物に共感し、助け合っていこうとする気持ちを考えることができたか。（発言・ワークシート）
		・児童の日常生活にも優しさがあることに気付かせる。